

「さき織りでコースターを作ろう！」

対 象：小学4～6年生
 人 数：1クラス 30～35人
 教科／分野：家庭科
 授業時間数：45分×2コマ
 場 所：小学校家庭科室

ESD プログラ ムへの 想い	ゴミ減量、リサイクルという課題を、単にその事だけ捉えるのではなく、つながりや多方面から考えること、また、それを自分の暮らし方に反映させられるおとなに育って欲しいと思っています。		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「もったいない」を「楽しいこと」に！ リサイクルに興味・関心を持つ。 ・自分たちの暮らしはいろいろなことにつながって成り立っていることを知る。 ・モノ、資源の流れにまで視野を広げ、大きな循環を感じてもらい、その上で、自分の暮らしに目を向け、さまざまなつながりに気づいてもらう。 ・実際の「ごみ減量につながる行動」につなげる。 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生で実施されるクリーンセンター見学をさらに深い理解、関心をもつことに発展させる。 ・自宅での作業も盛り込むことで、保護者にも関心を持ってもらう。 ・自分、または家族が着ていた衣類をリサイクルすることで、リサイクルがより身近で具体的なものになる。 		
持続可能 な社会づ くりの構 成概念	有限性：布、衣類の生産、使用、リユース・リサイクル、廃棄までを考え、資源やエネルギーは有限であることを知る。 責任制：ひとりひとりが「暮らす＝消費する」の意味を考え、どのような態度をとるか、考える。		
重視する 能力・態 度	③多面的、総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力 ⑤進んで参加する態度 ⑥つながりを尊重する態度		
プログラムの流れ			
時間	ねらい	方法 場所	内容
	1回目 (45分)		
15分	衣類がどこで作られ（縫製）、誰が使うのか。さらに言えば、その原料はどこで生産されているのか。互いに発表し合うことで共有化を図る	家庭科室 4人1組 の島 講義とインタビュー	<キミの服は made in○○？> 洋服を持参、そのタグから様々なことを読み取ってもらう。 どこで作られた？／何でできているの？原料は？ 原料はどこで作られているのかな？

10分	衣類のその後を話し合い、家ではどうしているか、自分の暮らしを見渡してみる。また、家からなくなったあと、どうなるか想像してみることで、課題を深掘りする。	講義とインタビュー	<古着リサイクルのお話> 買った・使ったあと、どうなるのかな？ 話し合ってみよう
	豊かな国から貧しい国へとモノが流れてリサイクルが成り立っている(買い支えられていることで成り立っている)。	講義	<古着リサイクルの現状～3つの用途～> 中古衣料・ウエス・反毛～実物も用意して具体的に示す。
	モノのなかった時代の必要に迫られた手仕事である裂き織りの紹介。⇒暮らしを工夫することの楽しみに。	講義	さき織りの歴史にふれながら、作り方を説明 次回の持ち物の説明
	2回目 (45分)		
15分		家庭科室 実技	<さき織り体験「コースター作り」緯糸作り> 持参したシャツを分解、細く裂く、あるいは切る。
20分		実技	<さき織り体験「コースター作り」> 木枠を使って裂き織り 子ども向けテキスト用意
10分	暮らしに密接につながっている衣類のリサイクルを通じて、限りある資源、それを活かす知恵をもつことの素晴らしさ、つながっている人たちのことを思い、これからの社会を想像する力を養う。	発表	まとめ
SDGsとの関連性	12, つくる責任 つかう責任		
学校・地域等との連携上の考慮	授業でのねらいを先生と十分話し合い、共有すること。また、時間配分、持ち物などについて、家庭からの協力についても十分な打ち合わせ必要。		
対象を展覧させる可能性			
その他補足事項			

プログラム作成者名(団体名): 畑山 文恵 (ファイバーリサイクルうらやす)